

浅川扇状地遺跡群現地説明会資料

（財）長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター

1. はじめに

長野県埋蔵文化財センターでは、県道高田若槻線建設（長野建設事務所）に伴い、平成23年4月から浅川扇状地遺跡群の発掘調査を実施しております。平成23年度発掘調査では、古墳時代から平安時代の集落跡や中世の堀跡などたくさんの成果がありました。本年度の調査では、昨年度同様古墳時代から平安時代の集落跡はもちろんのこと、昨年度の調査では確認されなかった弥生時代の竪穴住居跡なども検出されました。本日の説明会では、重なり合ってみつかった弥生時代から平安時代の竪穴住居跡を公開し、そこから出土した弥生時代から平安時代の遺物出土品を展示します。



調査区上空より飯綱山を望む

2. 調査の概要

所在地 : 長野市吉田1丁目、桐原2丁目

調査面積 : 4,520 m²（表面積）

調査期間 : 平成24年4月16日～11月30日（予定）

調査原因 : 県道高田若槻線建設に伴う発掘調査

今年度の調査で発見されたもの：

- 遺構** 竪穴住居跡 44軒（弥生時代4軒、古墳時代5軒、奈良時代3軒、平安時代32軒）
- 流路跡 2条（弥生時代1条、平安時代1条）
- 溝跡 5条（奈良・平安時代）
- 墓跡 4基（平安時代～中世）
- 土坑 約120基（古墳時代～中世）

遺物 弥生時代の土器、古墳時代～平安時代の土師器・須恵器・円面硯・帯金具など

3. 説明会の見どころ

①新しく弥生時代の竪穴住居跡が発見！

今年度の調査では、弥生時代後期（約 1,800 年前）の竪穴住居跡が 4 軒見つかりました。調査地の北西には長野県の弥生時代後期の代表的土器の一つである吉田式土器が最初にみつかった『長野吉田高校グラウンド遺跡』があります。そこでは大きな集落跡が確認されていて、その集落との関係が注目されます。またその他にも、弥生時代の遺構として、調査区の北端で中期（約 2,000 年前）の流路跡もみつっています。流路内からはたくさんの土器片や石器が出土していて、近くにさらに古い時期の集落が存在していた可能性を考えることができそうです。



流路からみつかった弥生時代中期の土器（壺）

②重なり合う住居跡

今年度の調査では、古墳時代（約 1,700 年前）から平安時代（約 1,100 年前）の竪穴住居跡が 40 軒確認されていて、昨年度の調査と合わせると 100 軒を超す住居跡が確認されています。確認された竪穴住居跡は、何軒も重なり合っていて、長い間同じような場所に住居を建て替えて住んでいたことが分かりました。



竪穴住居跡の調査風景

③筆立て付円面硯の新たな破片の発見！！

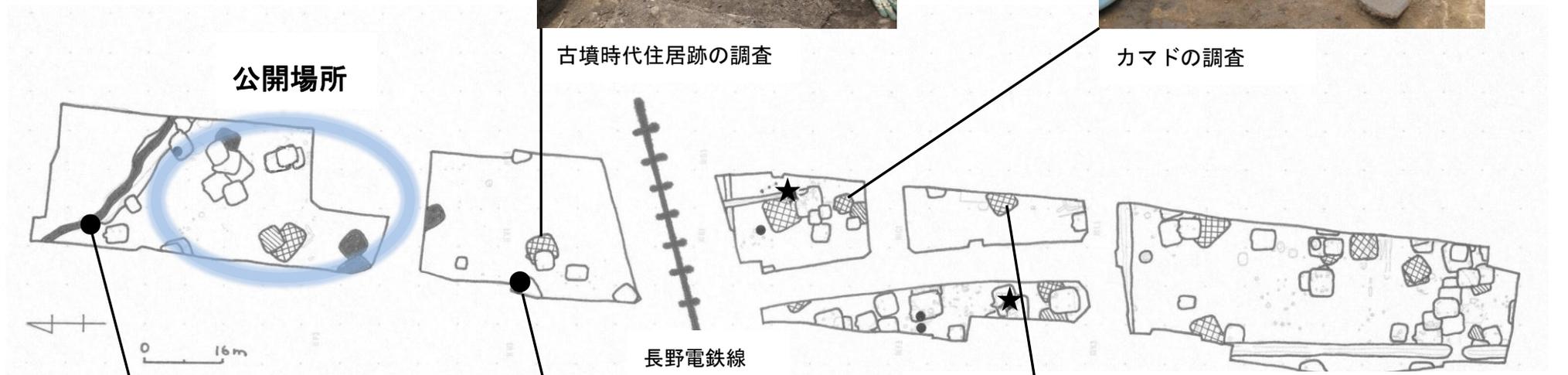
昨年度の調査では住居跡の中から筆立て付円面硯の破片がみつかり、これは県内初の出土として話題になりました。その筆立て付円面硯の破片に接合する新しい破片が、昨年出土場所から約 50m離れた溝の中から出土しました。



筆立て付円面硯

長野県埋蔵文化財センター
〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4
TEL(026)293-5926 FAX(026)293-8157
E-mail info@naganomaibun.or.jp
インターネット（最新の情報はこちらから）
長野県埋蔵文化財センター 
<http://naganomaibun.or.jp/>

浅川扇状地遺跡群遺構全体図



古墳時代住居跡の調査



カマドの調査



木製の棺に埋葬されていた人骨の調査



膝を曲げた状態で埋葬されていた人骨



重なるように見つかった古墳時代の土器

弥生時代 ■ 古墳時代 ▨ 奈良時代 ▩ 平安時代 □ 筆立て付門面視 ★ 墓跡 ●